

■ シミュレーション学研究科

1 教育研究上の目的

(研究科規程 第3条)

1. 本研究科は、自立的にシミュレーションの考え方・技法を活用して、社会の諸問題の解決に貢献できる実践能力の高い研究者・技術者を養成し、人々が安心して暮らすことができる社会の構築に貢献することを目的とする。
2. 博士前期課程においては、シミュレーションの考え方と基本技法を身につけ、自立的にシミュレーション技法を活用して、社会の諸問題の解決に貢献できる実践能力の高い人材を育成する。
3. 博士後期課程においては、シミュレーションを用いて現代社会の諸問題を解決し科学の発展と人類の幸福に寄与するために必要な専門知識と技術を習得し、それを自主的・計画的に活用した研究を推進できる能力と研究成果を社会への提言につなげる能力を身につけた人材を育成する。

2 3つのポリシー

育成する人材像

本研究科では、シミュレーションを用いて現代の諸問題の解決に資する専門知識と技術を習得し、それを自主的・計画的に活用した研究を推進できる能力と研究成果を社会への提言につなげる能力を身につけた人材の育成を目指す。

①ディプロマポリシー

下記の能力を身につけた学生に学位を授与する。

- 1.シミュレーションの考え方と基本技法を身につけている
- 2.自立的にシミュレーション技法を活用している
- 3.現代の諸問題の解決に資する専門家としての能力を修得している

②カリキュラム・ポリシー

- 1.一連のシミュレーションプロセスであるデータ収集、データ処理、モデリング、アルゴリズム、プログラミング、可視化、そして問題の解決策の検討・提言まで、一貫してシミュレーション技法を実践出来る能力を身につけることが出来るよう、カリキュラムの体系化を構築している
- 2.1年次配当の基礎科目でシミュレーションの基本的技法を学ぶ
- 3.実際の課題に応用するために4つの選択分野（政策問題分野、産業の新展開分野、自然環境分野、基盤分野）を設け、それぞれにおいて専門科目を配置した
- 4.特別研究Ⅰおよび特別研究Ⅱでは、自主課題研究における課題の設定から問題解決策の検討まで、自分の力で一貫してやり遂げる経験をさせることで、基礎的な内容から発展的な内容へと、段階的に研究が深められる
- 5.学修成果の評価は、試験、レポート、参加度、発表内容、論文の審査結果等により、学修目標に即して多面的な方法で行う。

③アドミッションポリシー

- 1.社会科学系及び自然科学系など幅広い分野から学生を受け入れる
- 2.日本の4年制大学の卒業と同等と見込まれる学力を有すると認められれば、国内及び国外を問わない
- 3.幅広い分野の学生が受験することを想定し、本課程の科目を履修するために必要な基礎的な学力を確認する